

認 定 書

国 住 指 第 1214 号
令和 3 年 6 月 29 日

竹村工業株式会社
代表取締役社長 鹿養 広司 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-1912-1(1)
2. 認定をした構造方法等の名称
葺材〔ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、チタン板製又は銅板製〕・硬質木毛セメント板・フェノールフォーム板表張／軽量鉄骨下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

葺材〔ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、チタン板製又は銅板製〕・硬質木毛セメント板・フェノールフォーム板表張／軽量鉄骨下地屋根

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
厚さ	45.9以上
母屋間隔	607以下

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
1 屋根葺材	[1]基材 (1)～(19)のうち、いずれか一仕様とする (1)塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3322 ・厚さ 0.35～1.2 (2)塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3318 ・厚さ 0.35～1.2 (3)両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9584) ・厚さ 0.35～1.2 (4)フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9662) ・厚さ 0.35～1.2 (5)塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3312 ・厚さ 0.35～1.2 (6)溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・厚さ 0.35～1.2 (7)溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 ・厚さ 0.35～1.2 (8)両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-1863) ・厚さ 0.35～1.2 (9)塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-8697) ・厚さ 0.35～1.2 (10)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.35～2.3 (11)電気亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3313 ・厚さ 0.35～2.3

項 目	仕 様
1 屋根葺材 (つづき)	(12) 熱間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4304 ・厚さ 0.35～2.0 (13) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 ・厚さ 0.35～2.0 (14) 耐熱鋼板 ・規格 JIS G 4312 ・厚さ 0.35～2.0 (15) 塗装ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.35～0.8 (16) 両面ポリエステル樹脂系塗装/亜鉛めっきステンレス鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9673) ・厚さ 0.4～0.8 (17) チタン展伸材 ・規格 JIS H 4600 ・厚さ 0.3～2.0 (18) 銅板 ・規格 JIS H 3100 ・厚さ 0.3～3.5 (19) ポリエステル樹脂系塗装/チタン亜鉛合金板張/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9425) ・厚さ 0.8～2.5 [2] 塗装(基材は(1)、(2)、(5)、(9)、(15)の場合に限る) (1)～(9)のうち、いずれか一仕様または組み合わせとする (1) ポリエステル系樹脂 (2) フッ素系樹脂 (3) エポキシ系樹脂 (4) ウレタン系樹脂 (5) アクリル系樹脂 (6) アミノ・アルキド系樹脂 (7) 塩化ビニル系樹脂 (8) シリコン系樹脂 (9) ポリウレタン系樹脂 ・塗布量 124g/㎡以下 (表面：80g/㎡以下・裏面：44g/㎡以下) ・有機質量 124g/㎡以下 (表面：80g/㎡以下・裏面：44g/㎡以下)

項 目	仕 様
1 屋根葺材 (つづき)	[3] 形状 (1)～(11)のうち、いずれか一仕様とする (1) 立平葺き(働き幅100～850、山高さ15以上) (2) 横葺き(働き幅100～675、山高さ5以上) (3) 瓦棒葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (4) 折板葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (5) かん合式瓦棒葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (6) かん合式瓦棒葺き(丸棧)(働き幅100～675、山高さ15以上) (7) 本体押え込み縦葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (8) かん合式立ちハゼ葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (10) 円筒葺き(働き幅100～675、山高さ15以上) (11) 平葺き(働き幅100～850、山高さ5以上) (別添-10, 11参照)
2 キャップ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり(屋根葺材[4]形状(3)～(8)に限る) [1] 基材 (1)～(19)のうち、いずれか一仕様とする (1) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3322 ・厚さ 0.35～1.2 (2) 塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3318 ・厚さ 0.35～1.2 (3) 両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9584) ・厚さ 0.35～1.2 (4) フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定：NM-9662) ・厚さ 0.35～1.2 (5) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3312 ・厚さ 0.35～1.2

項 目	仕 様
2 キャップ (つづき)	(6) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・厚さ 0.35～1.2 (7) 溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 ・厚さ 0.35～1.2 (8) 両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通大臣認定:NM-1863) ・厚さ 0.35～1.2 (9) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定:NM-8697) ・厚さ 0.35～1.2 (10) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.35～2.3 (11) 電気亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3313 ・厚さ 0.35～2.3 (12) 熱間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4304 ・厚さ 0.35～2.0 (13) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 ・厚さ 0.35～2.0 (14) 耐熱鋼板 ・規格 JIS G 4312 ・厚さ 0.35～2.0 (15) 塗装ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.35～0.8 (16) 両面ポリエステル樹脂系塗装/亜鉛めっきステンレス鋼板 (国土交通大臣認定:NM-9673) ・厚さ 0.4～0.8 (17) チタン展伸材 ・規格 JIS H 4600 ・厚さ 0.3～2.0 (18) 銅板 ・規格 JIS H 3100 ・厚さ 0.3～3.5 (19) ポリエステル樹脂系塗装/チタン亜鉛合金板張/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定:NM-9425) ・厚さ 0.8～2.5 [2] 塗装(基材は(1)、(2)、(5)、(9)、(15)の場合に限る) (1)～(9)のうち、いずれか一仕様または組み合わせとする (1) ポリエステル系樹脂 (2) フッ素系樹脂 (3) エポキシ系樹脂 (4) ウレタン系樹脂 (5) アクリル系樹脂 (6) アミノ・アルキド系樹脂 (7) 塩化ビニル系樹脂 (8) シリコン系樹脂 (9) ポリウレタン系樹脂 ・塗布量 124g/㎡以下(表面:80g/㎡以下・裏面:44g/㎡以下) ・有機質量 124g/㎡以下(表面:80g/㎡以下・裏面:44g/㎡以下)

項 目	仕 様
2 キャップ (つづき)	[3] 形状 (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 瓦棒葺き (2) 折板葺き (3) かん合式瓦棒葺き (4) かん合式瓦棒葺き(丸棧) (5) 本体押え込み縦葺き (6) かん合式立ちハゼ葺き (別添-10, 11参照)
3 吊子	[1] 基材 2 キャップ-[1] 基材と同じ [2] 塗装(基材は(1)、(2)、(5)、(9)、(15)の場合に限る) 2 キャップ-[2] 塗装と同じ [3] 間隔 (1)～(11)のうち、いずれか一仕様とする (1) 立平葺き 635以下又は通し (2) 横葺き 675以下又はなし (3) 瓦棒葺き 635以下又は通し (4) 折板葺き 635以下 (5) かん合式瓦棒葺き 635以下又は通し (6) かん合式瓦棒葺き(丸棧) 635以下又は通し (7) 本体押え込み縦葺き 635以下又は通し (8) かん合式立ちハゼ葺き 635以下又は通し (9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き 635以下又はなし (10) 円筒葺き 635以下 (11) 平葺き 675以下又はなし [4] 形状 (ピース又は通し) (1)～(9)のうち、いずれか一仕様とする。 (1) 仕様-1(立平葺きの場合) (2) 仕様-2(横葺きの場合) (3) 仕様-3(瓦棒葺きの場合) (4) 仕様-4(折板葺きの場合) (5) 仕様-5(かん合式瓦棒葺き、かん合式瓦棒葺き(丸棧)、本体押え込み縦葺きの場合) (6) 仕様-6(かん合式立ちハゼ葺きの場合) (7) 仕様-7(キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺きの場合) (8) 仕様-8(円筒葺きの場合) (9) 仕様-9(平葺きの場合) (別添-10, 11参照) [5] 寸法 (ピースの場合) ・40_{±5}以上 (別添-10, 11参照)

項 目	仕 様
4 タイトフレーム	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり(屋根葺材形状が(4)折板葺き、(10)円筒葺きの場合に限る) [1] 基材 2 キャップ-[1] 基材と同じ [2] 塗装(基材(1)、(2)、(5)、(9)、(15)の場合に限る) 2 キャップ-[2] 塗装と同じ [3] 間隔 675以下
5 野地板	[1] と [2] を [3] で貼り合わせた複合板 [1] 硬質木毛セメント板 (国土交通大臣認定:QM-9022) ・規格 JIS A 5404 ・厚さ 20～30 ・長さ 1820以下 ・幅 910以下 ・密度 1.0g/cm³以上 [2] フェノールフォーム板 ・規格 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) JIS A 9511 (2) JIS A 9521 ・組成(質量%) { フェノール系樹脂(レゾール系樹脂) 100 { 発泡剤(炭化水素) 5_{±2}(外割) ・厚さ 20～100 ・長さ 1820以下 ・幅 910以下 ・密度 27_{±2.7}～41_{±4}kg/m³ ・面材 (1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエステル不織布 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (2) ポリプロピレン不織布 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (3) ポリエチレン加工紙 ・有機質量 30_{±3}g/m²(両面) (4) アルミニウムはく [3] 接着剤：酢酸ビニル系 ・塗布量 250g/m²以下 (有機量 90g/m²以下)

2) 副構成材料

(寸法単位 : mm)

項 目	仕 様
①留付け材	[1]屋根葺材留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじ(吊子を使用しない場合) ・ 寸法 $\phi 4.6$以上$\times L20$以上 ・ 間隔 675以下 ・ 材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし(吊子を使用する場合) [2]吊子及びタイトフレーム留付け用 (1)～(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじ(吊子を使用する場合) ・ 寸法 $\phi 4.6$以上$\times L20$以上 ・ 間隔 675以下 ・ 材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし(吊子を使用しない場合) [3]野地板留付け用 ドリリングタッピンねじ ・ 寸法 $\phi 5$以上$\times L60$以上 ・ 間隔 405以下 ・ 材質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄 (2)ステンレス [4]防水材留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ステーブル ・ 寸法 幅9.6以上$\times$足長10以上 ・ 材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし [5]下地鉄板留付け用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ドリリングタッピンねじ ・ 寸法 $\phi 4$以上$\times L32$以上 ・ 間隔 1000以下 ・ 材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)鉄 2)ステンレス (2)なし

項 目	仕 様
②防水材	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ゴムアスファルトシート ・質量 3833g/m²以下 ・厚さ 1.0～3.0 (2) アスファルトルーフィングフェルト ・規格 JIS A 6005 ・質量 1625g/m²以下 ・厚さ 0.6～1.5 (3) 合成高分子系ルーフィングシート ・規格 JIS A 6008 ・質量 2750g/m²以下 ・厚さ 1.2～2.0
③通気材	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 透湿シート張りポリプロピレン製通気材 ・質量 450g/m²以下 ・厚さ 10_{±1} ・透湿シート 高密度ポリエチレン不織布 ・質量 157g/m² ・厚さ 0.4_{±0.04} (2) ポリプロピレン製通気材 ・質量 350_{±17.5}g/m² ・厚さ 7_{±0.7} (3) なし
④ジョイナー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり [1] 基 材 ・形状 T型 ・寸法 幅20以上×高さ5以上 ・材質 (1)～(11)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.27～0.4 (2) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3312 ・厚さ 0.27～0.4 (3) 熱間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4304 ・厚さ 0.3～0.4 (4) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 ・厚さ 0.3～0.4 (5) 耐熱鋼板 ・規格 JIS G 4312 ・厚さ 0.3～0.4 (6) 塗装ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.3～0.4

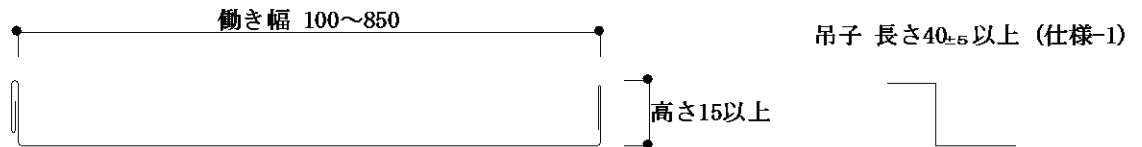
項 目	仕 様
④ジョイナー (つづき)	(7) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・厚さ 0.27～0.4 (8) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3322 ・厚さ 0.27～0.4 (9) アルミニウム板 ・規格 JIS H 4000 ・厚さ 0.5～1.0 (10) 塗装アルミニウム板 ・規格 JIS H 4001 ・厚さ 0.5～1.0 (11) アルミニウム合金押出形材 ・規格 JIS H 4100 ・厚さ 1.0～3.5 [2] 塗装(基材(2)、(6)、(8)、(10)の場合に限る) (1)～(9)のうち、いずれか一仕様または組み合わせとする (1) ポリエステル系樹脂 (2) フッ素系樹脂 (3) エポキシ系樹脂 (4) ウレタン系樹脂 (5) アクリル系樹脂 (6) アミノ・アルキド系樹脂 (7) 塩化ビニル系樹脂 (8) シリコン系樹脂 (9) ポリウレタン系樹脂 ・塗布量 124g/㎡以下 (表面:80g/㎡以下・裏面:44g/㎡以下) ・有機質量 124g/㎡以下 (表面:80g/㎡以下・裏面:44g/㎡以下) [3] 表面処理(基材(11)の場合に限る) ・材質 アルマイト
⑤下地鉄板	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) あり ・厚さ 0.27以上 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通大臣認定:NM-8697) 2) 塗装ステンレス鋼板 (国土交通大臣認定:NM-8321、NM-8316)

4. 構造説明図

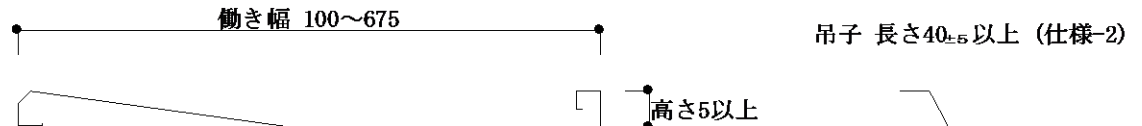
(寸法単位：mm)

[屋根葺材断面図]

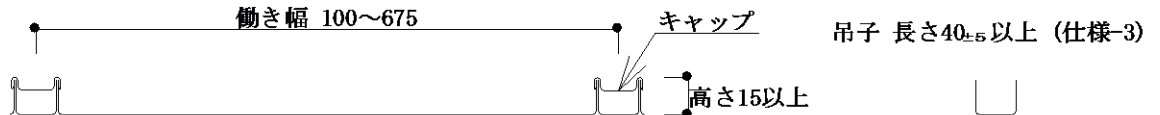
(1) 立平葺き



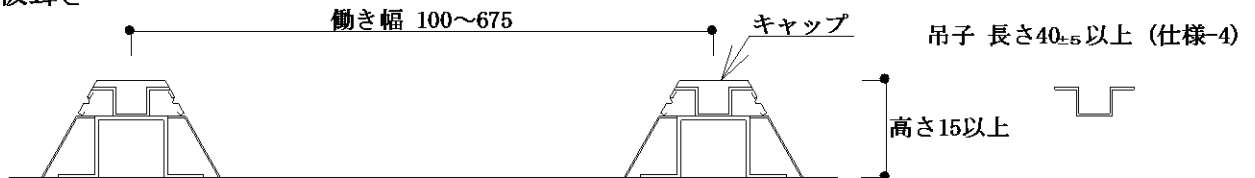
(2) 横葺き



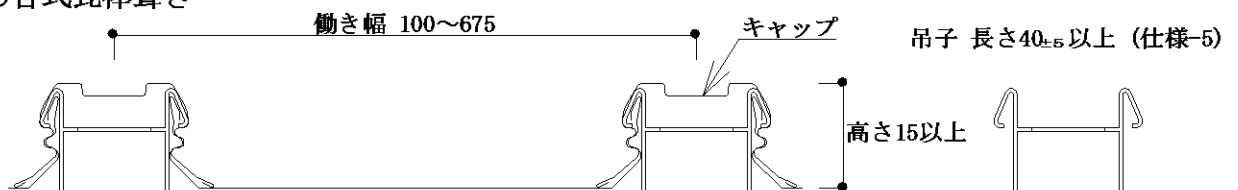
(3) 瓦棒葺き



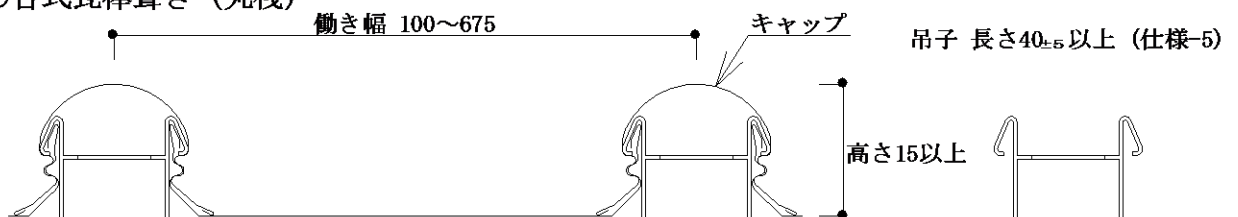
(4) 折板葺き



(5) かん合式瓦棒葺き

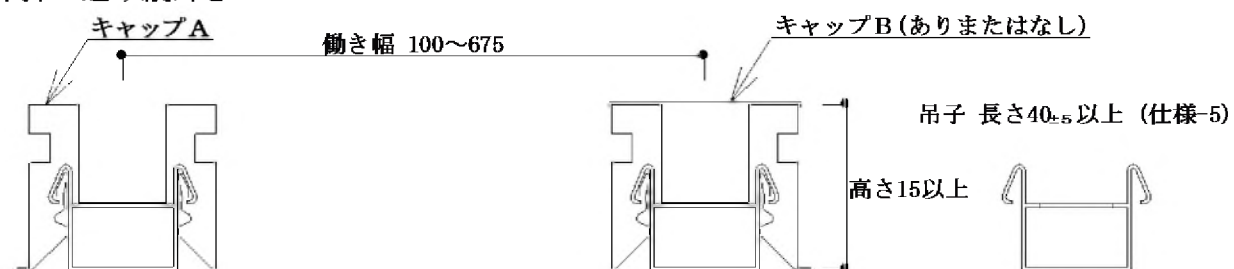


(6) かん合式瓦棒葺き (丸栈)

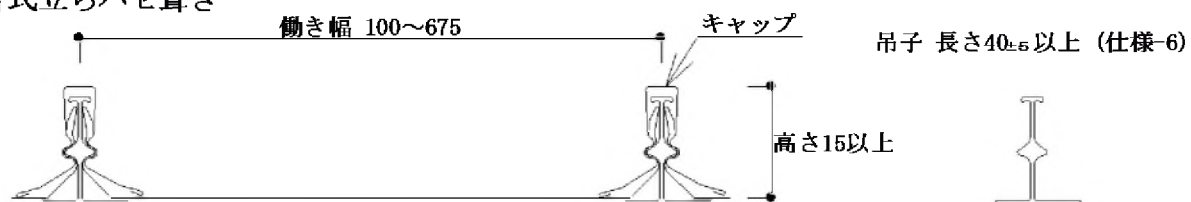


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

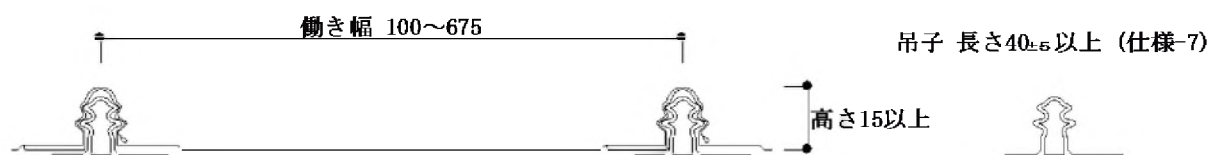
(7) 本体押え込み縦葺き



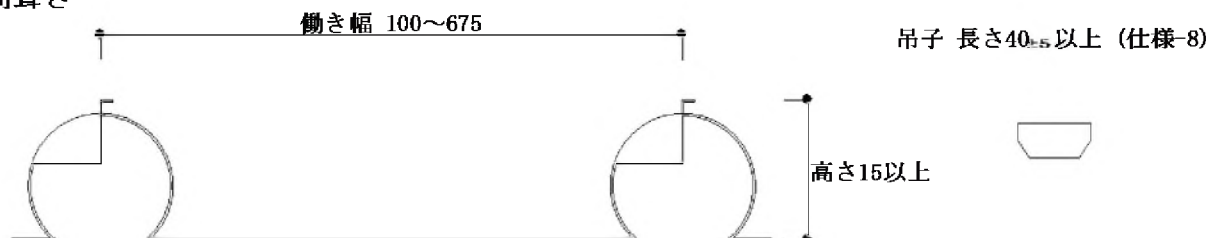
(8) かん合式立ちハゼ葺き



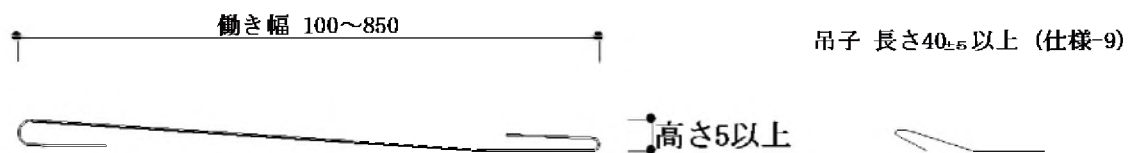
(9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き



(10) 円筒葺き



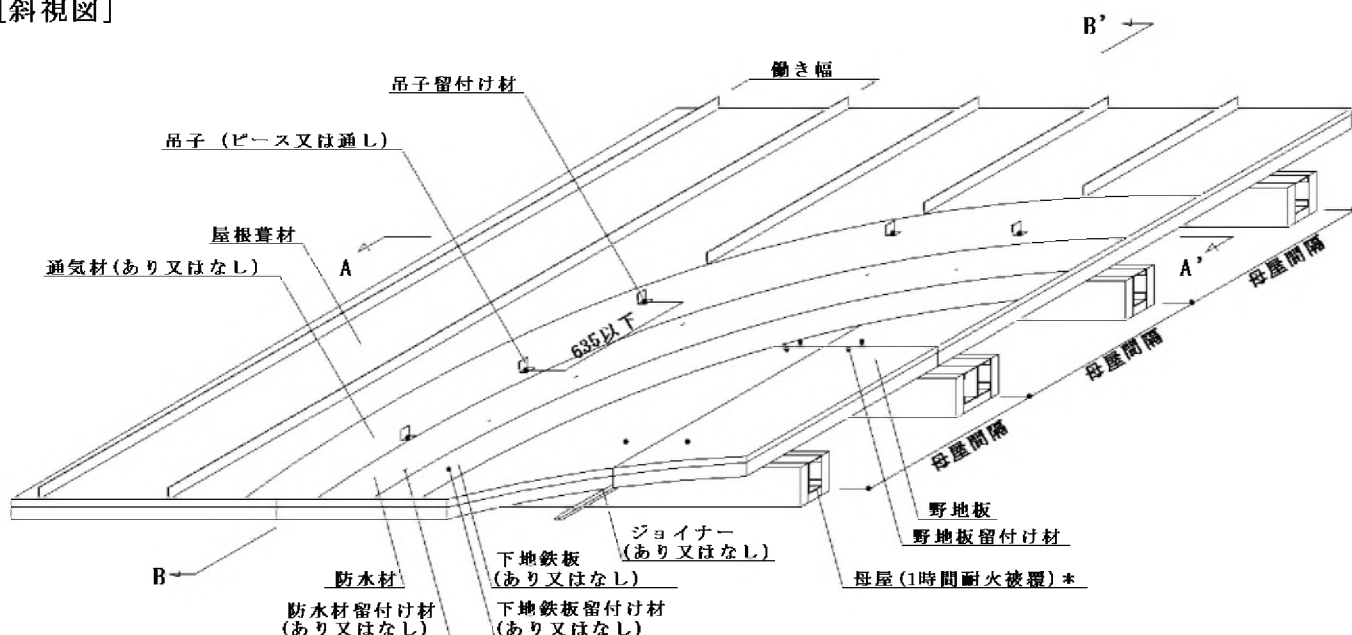
(11) 平葺き



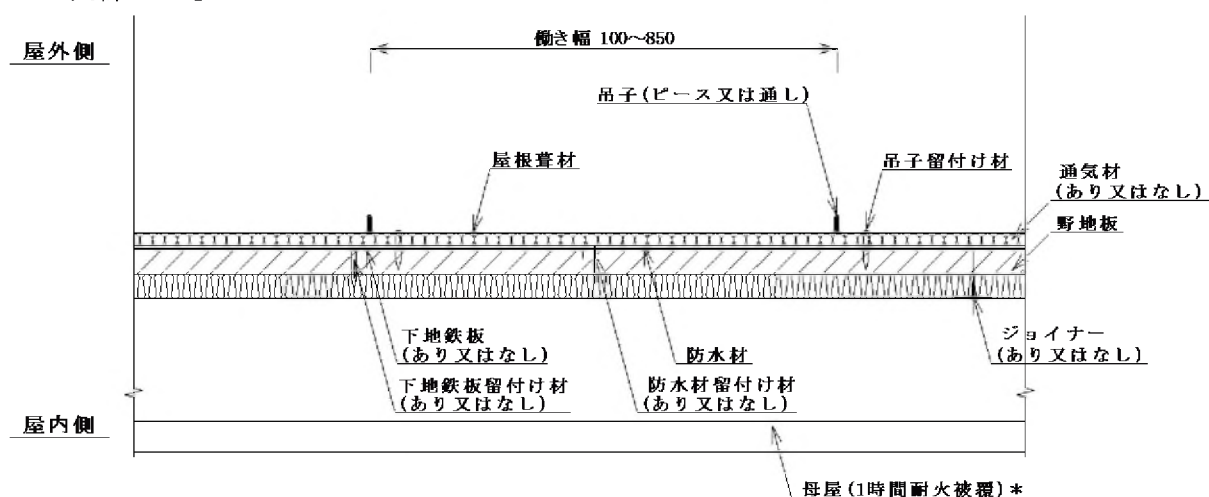
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(寸法単位：mm)

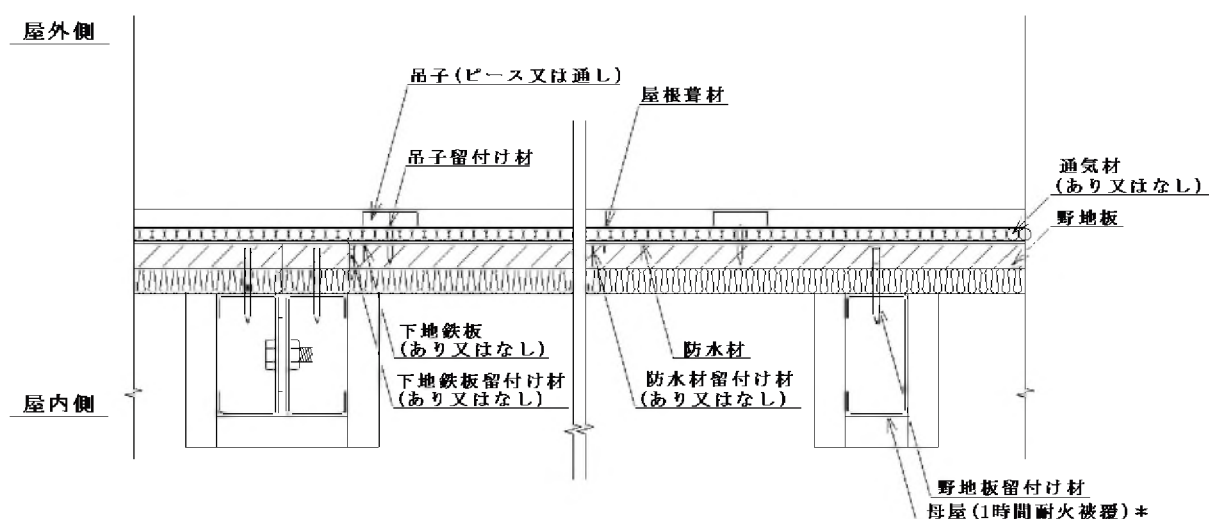
(1) 立平葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

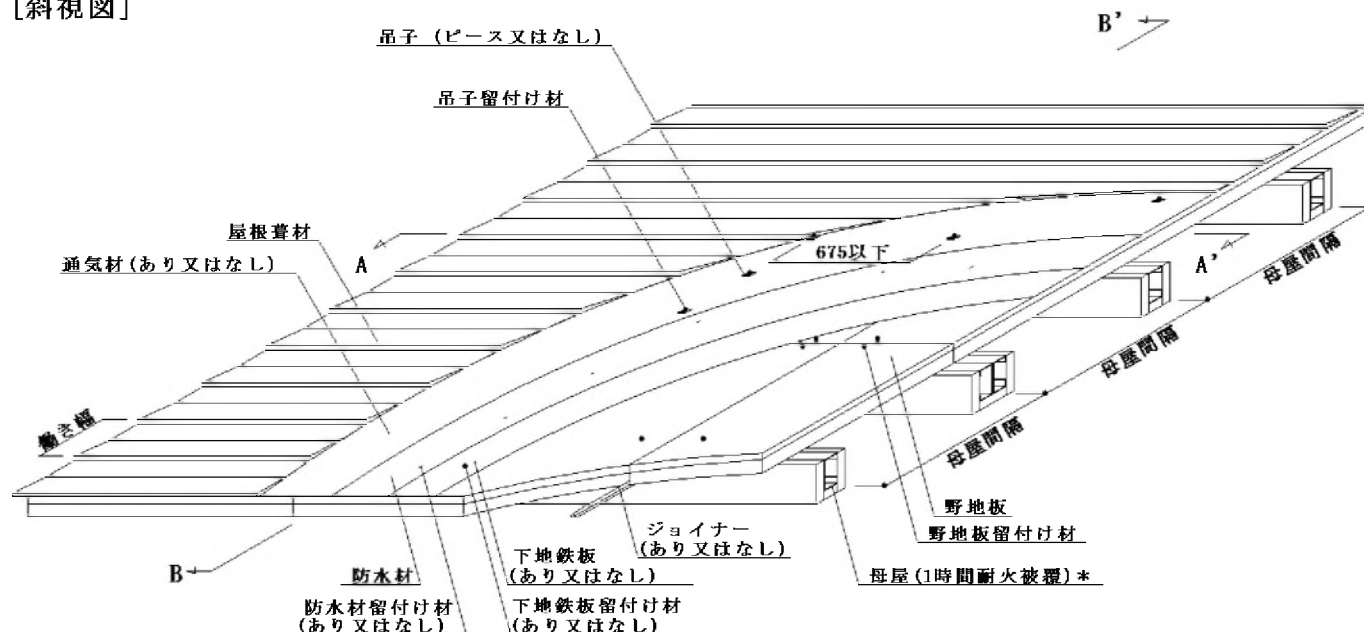


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

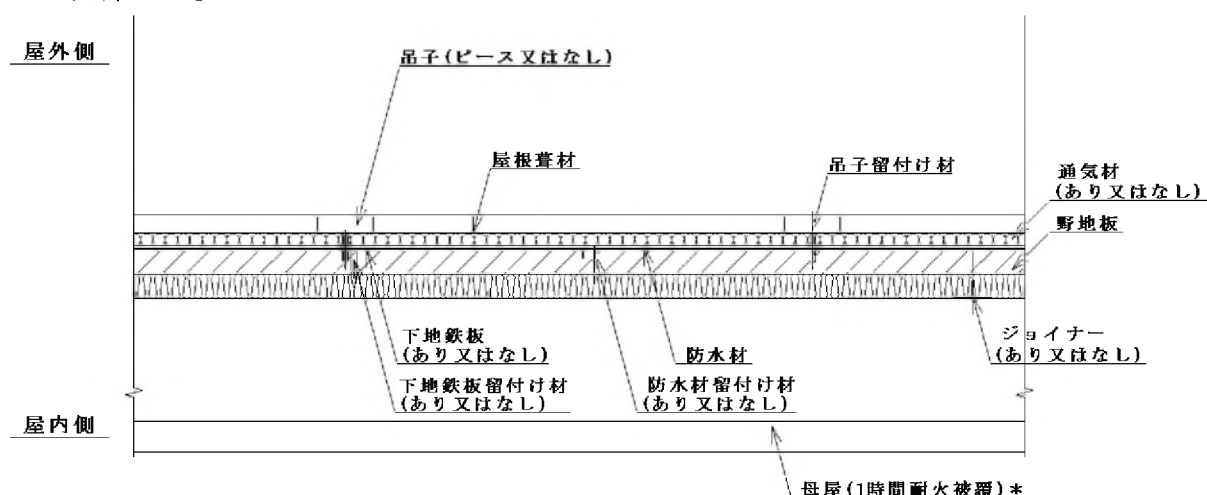
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

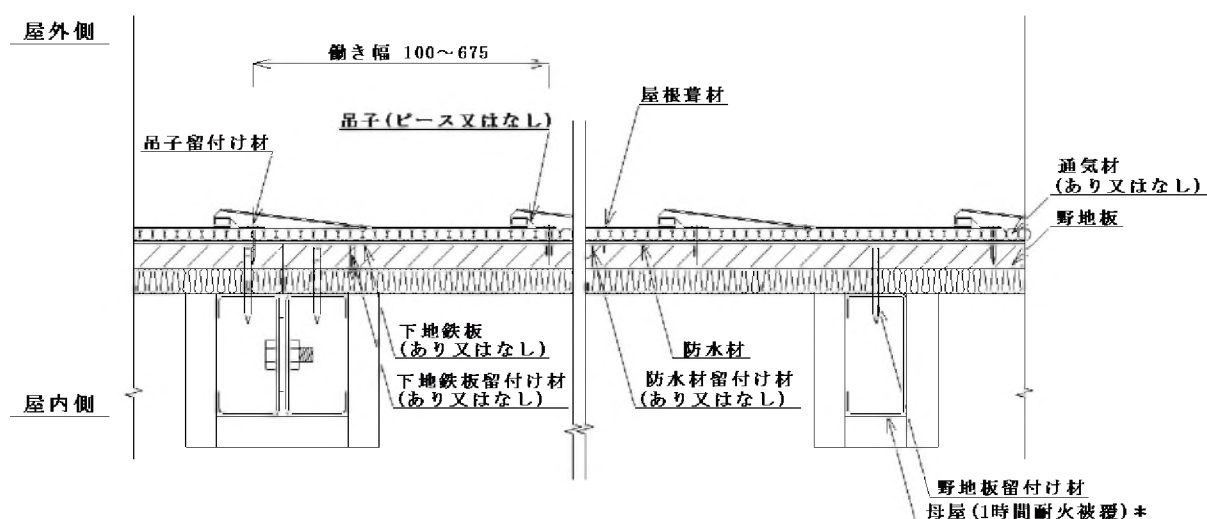
(2)横葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

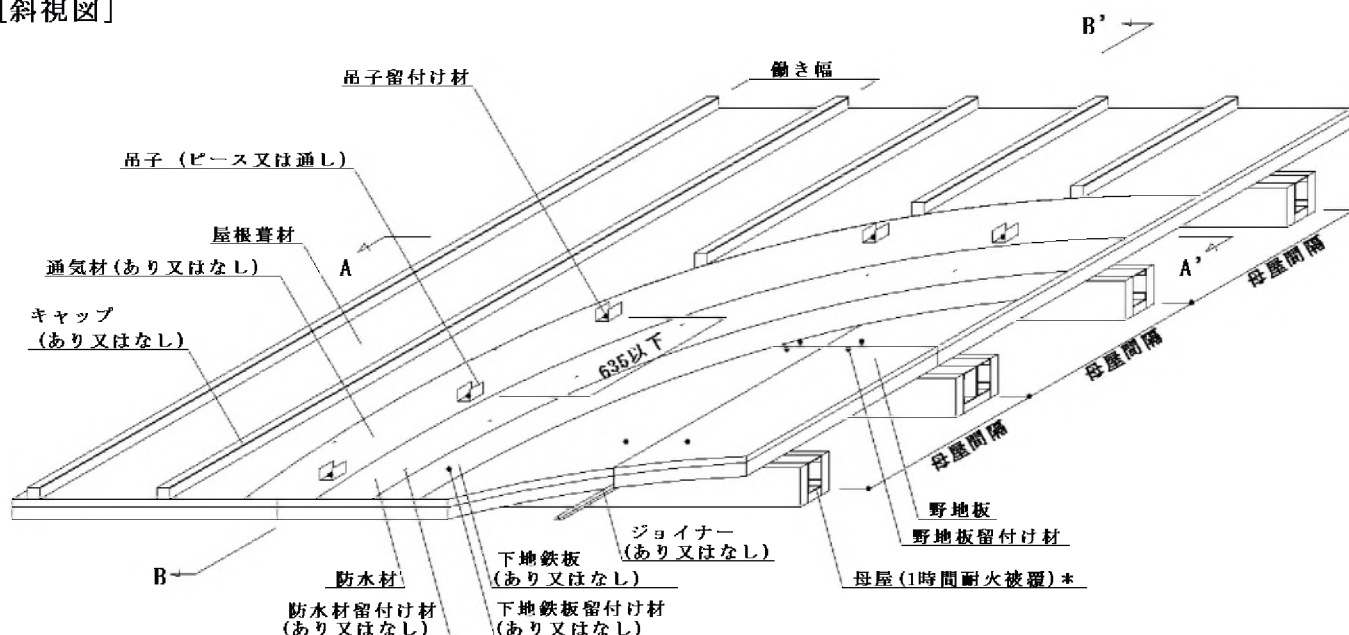


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

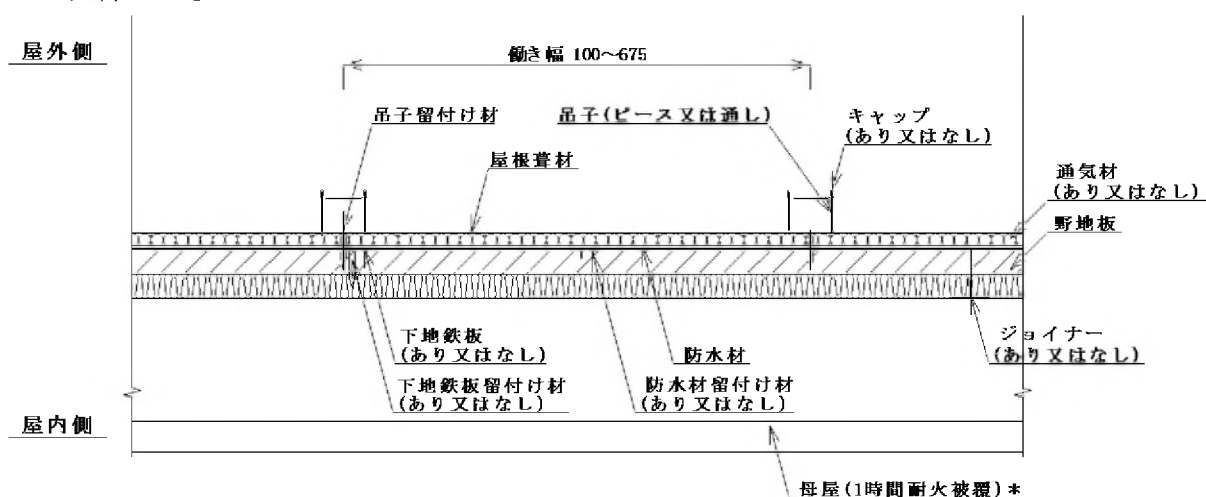
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

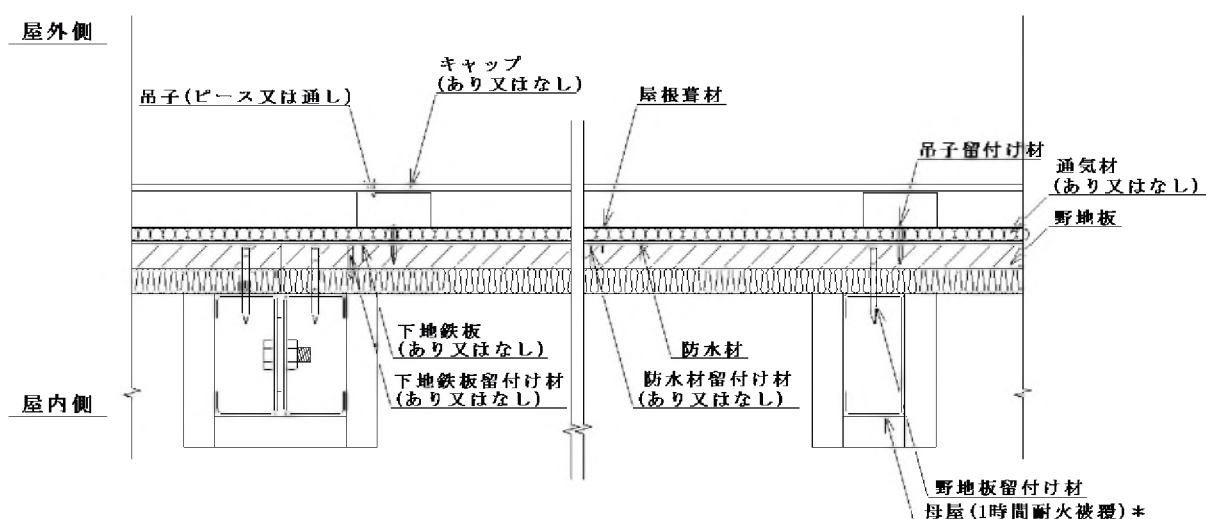
(3) 瓦棒葺き [斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

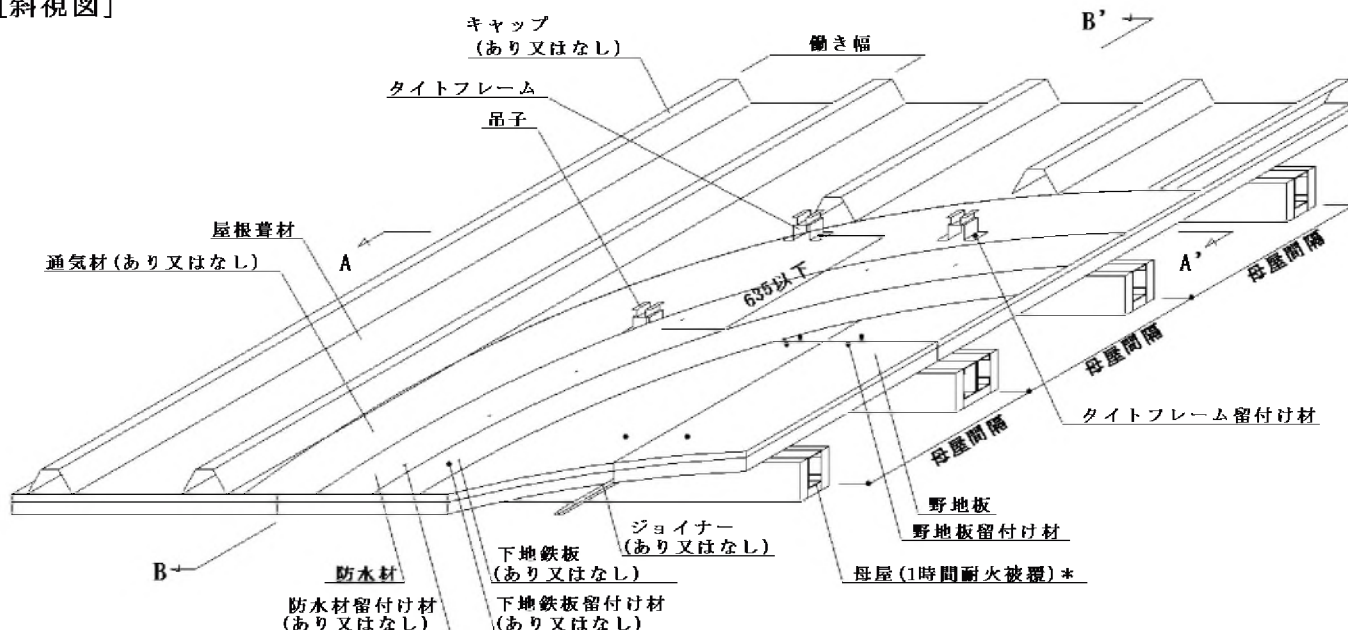


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

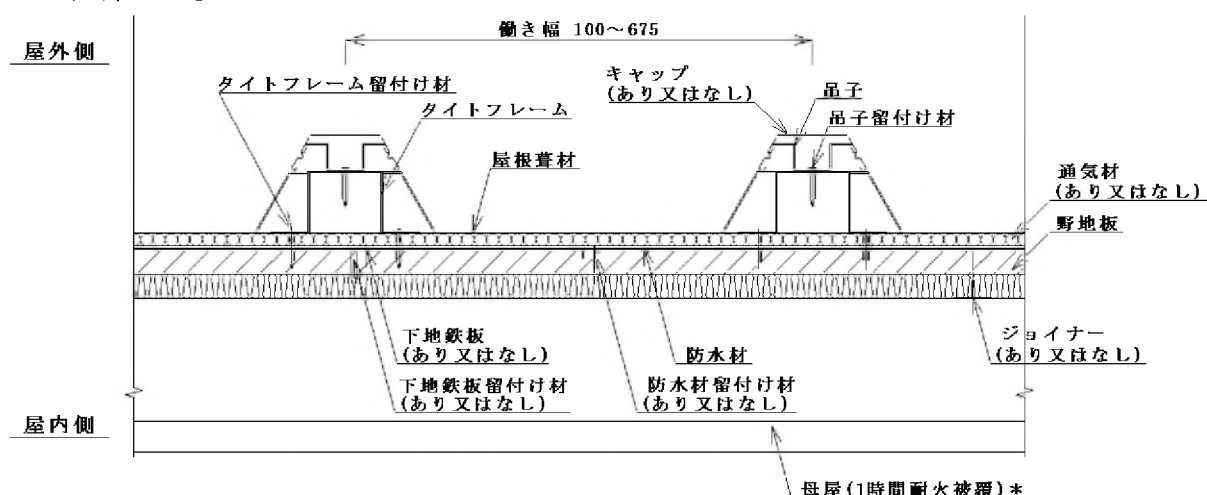
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

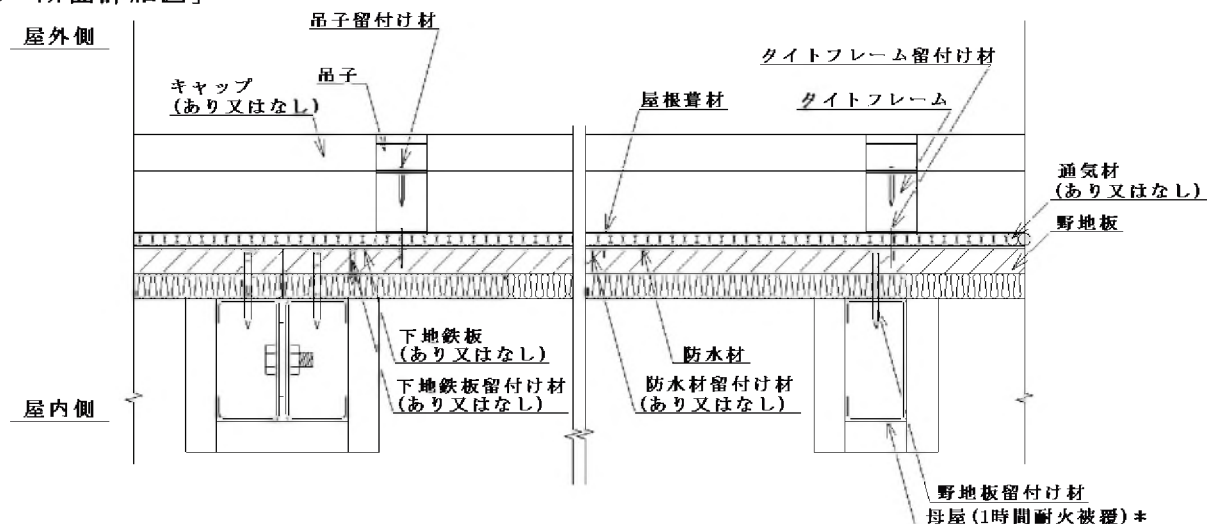
(4) 折板葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

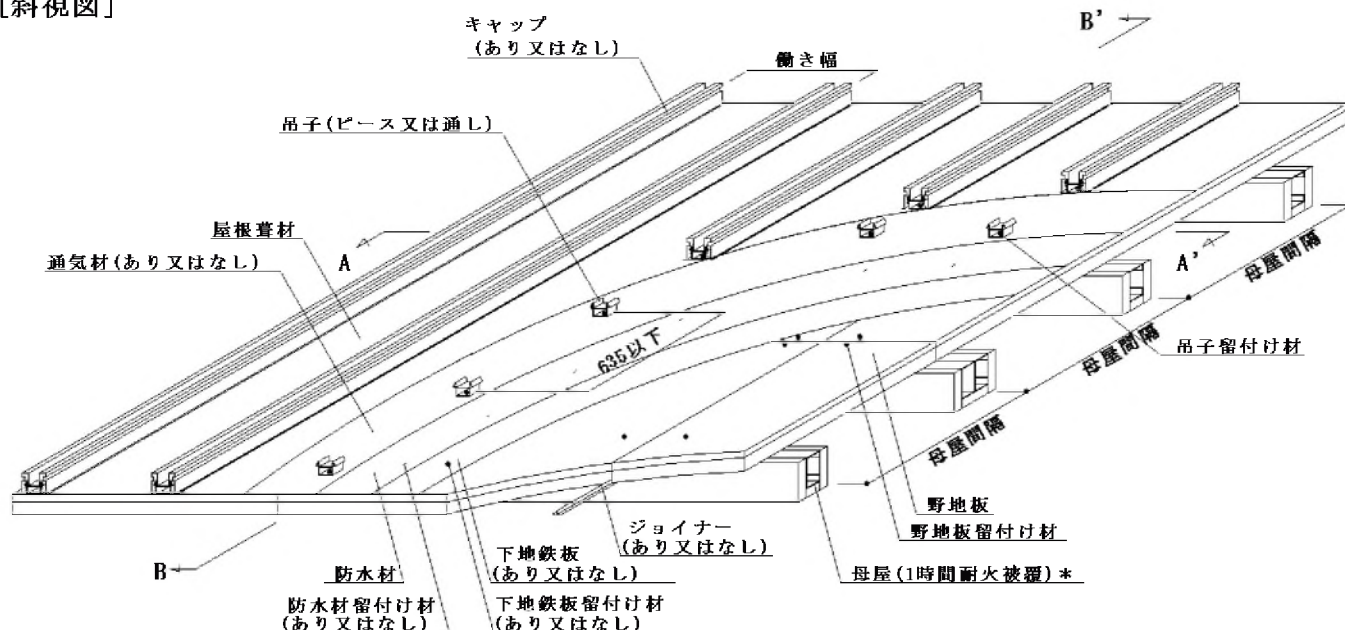


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

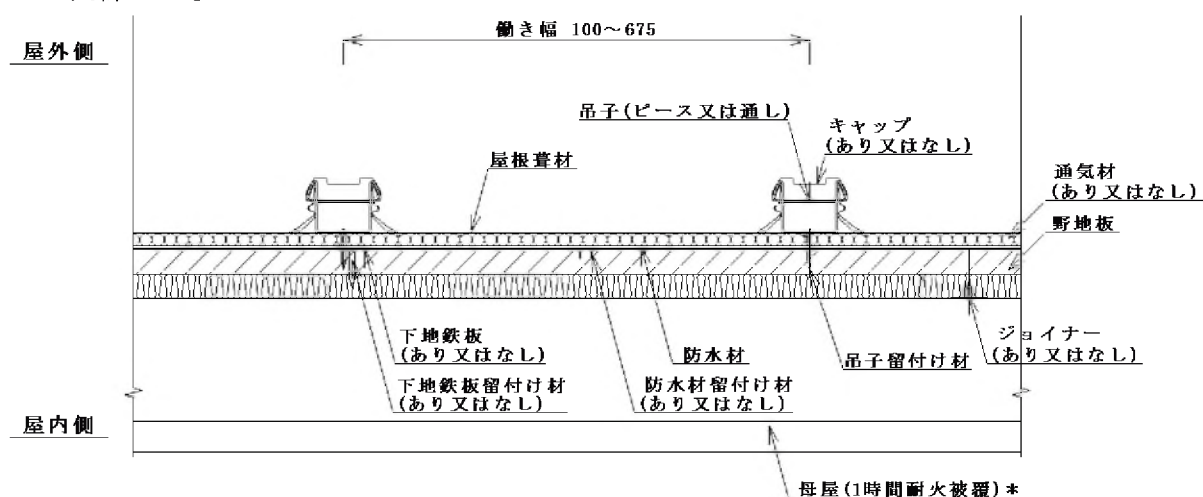
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

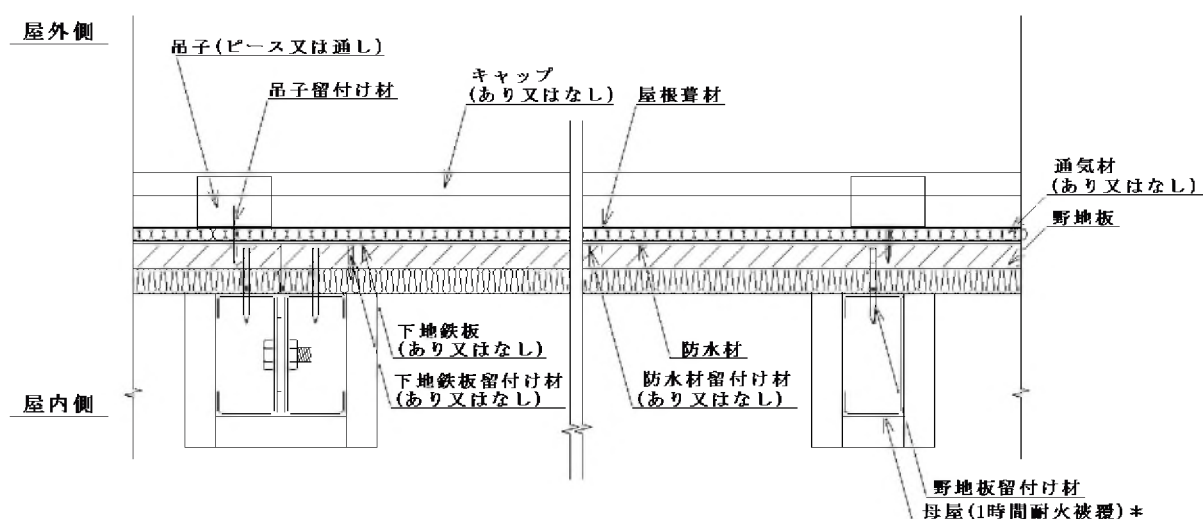
(5) かん合式瓦棒葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]



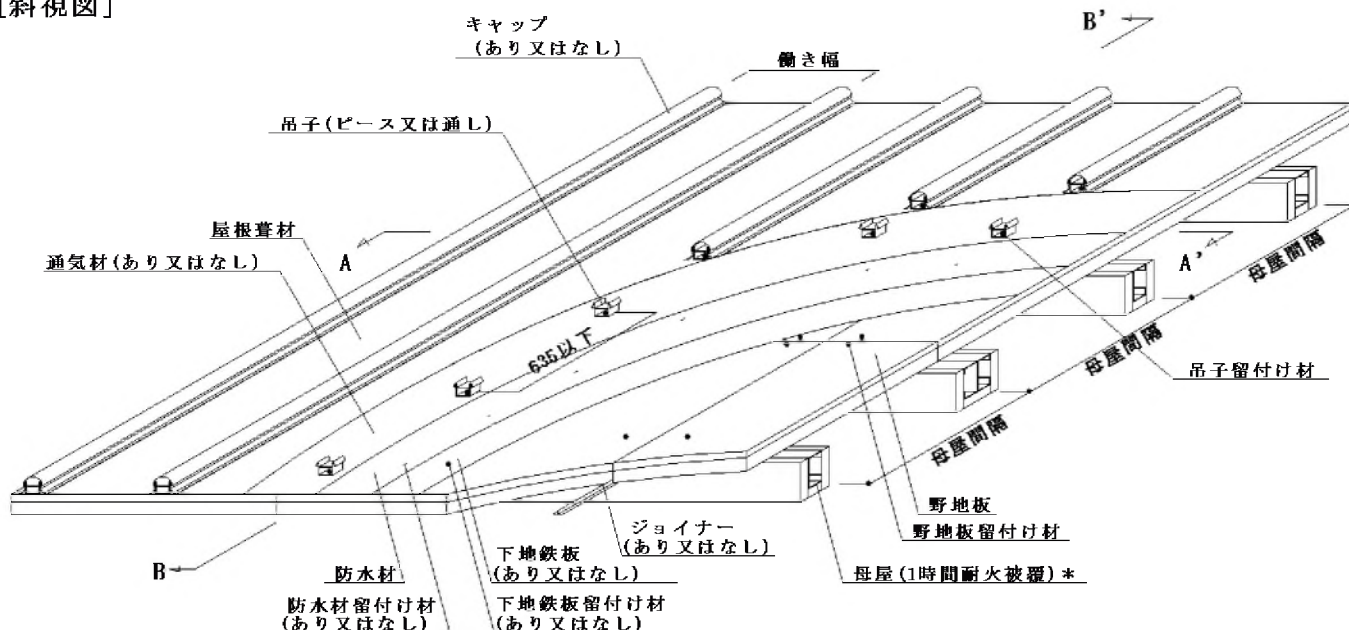
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

*: 本評価内容に含まない

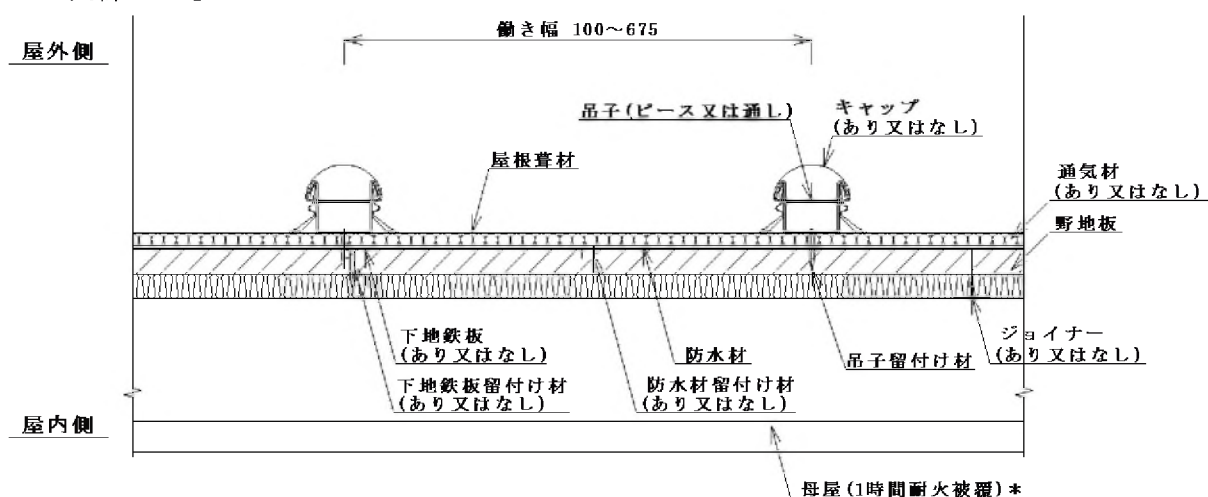
(寸法単位：mm)

(6) かん合式瓦棒葺き (丸棧)

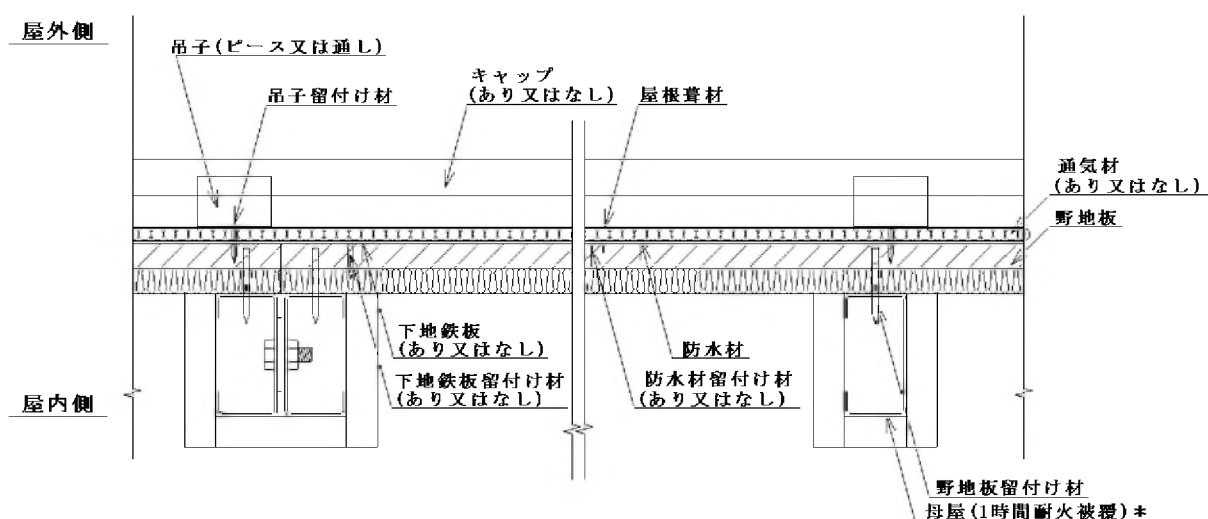
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

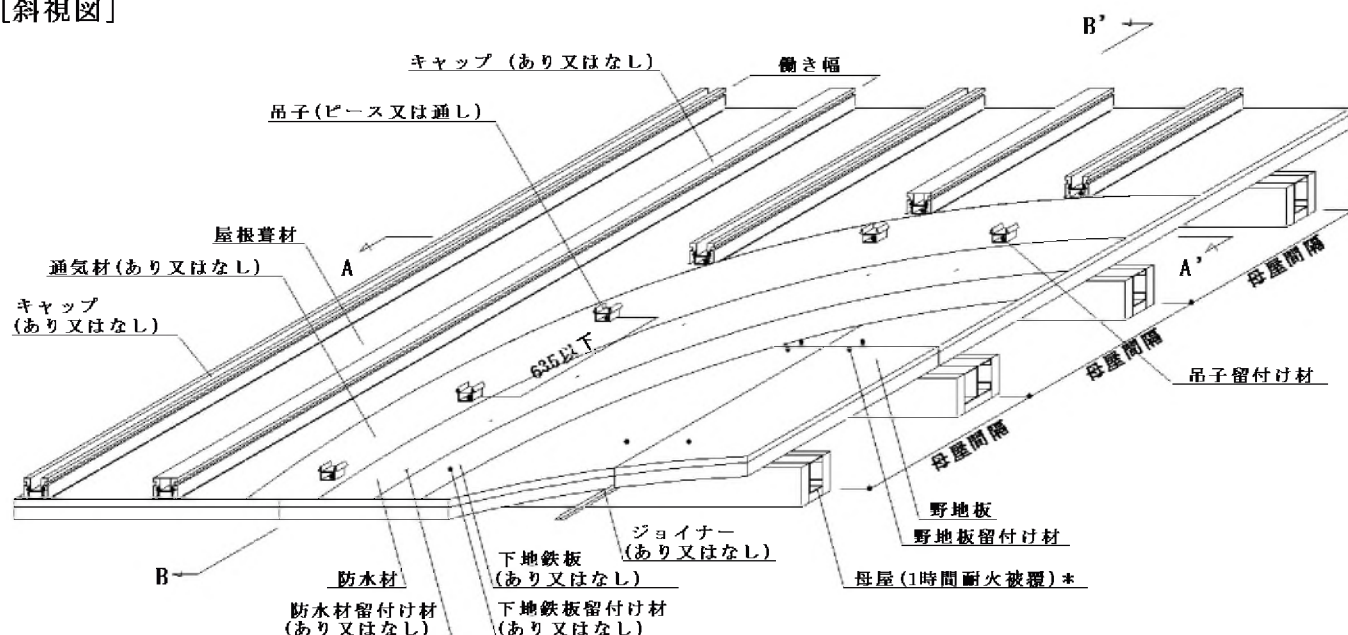


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

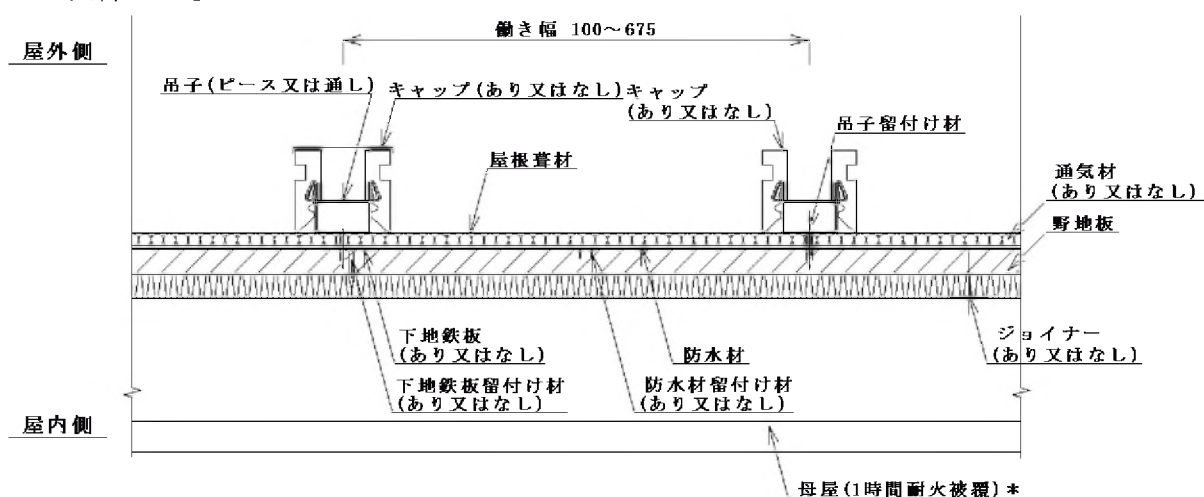
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

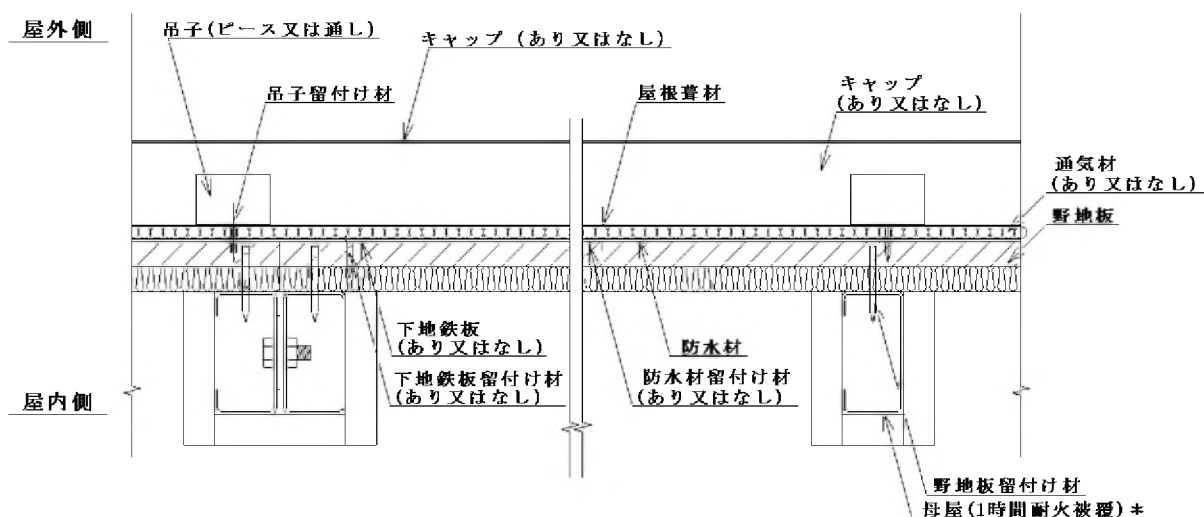
(7) 本体押え込み縦葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

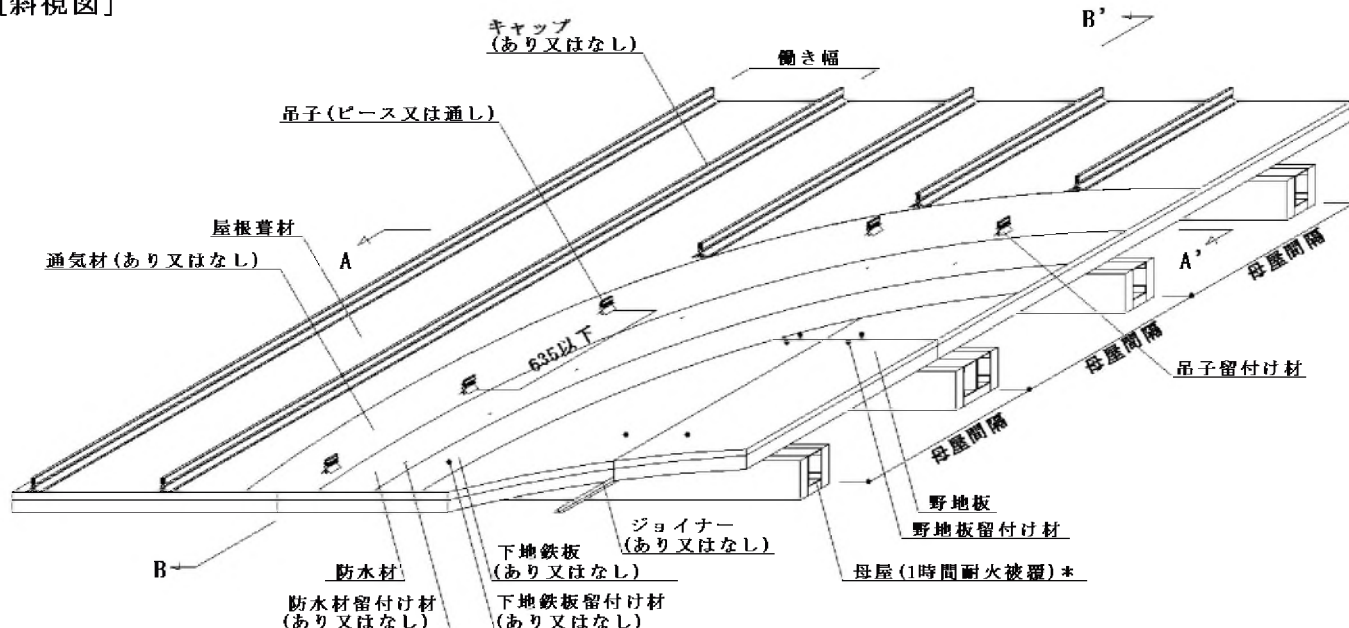


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

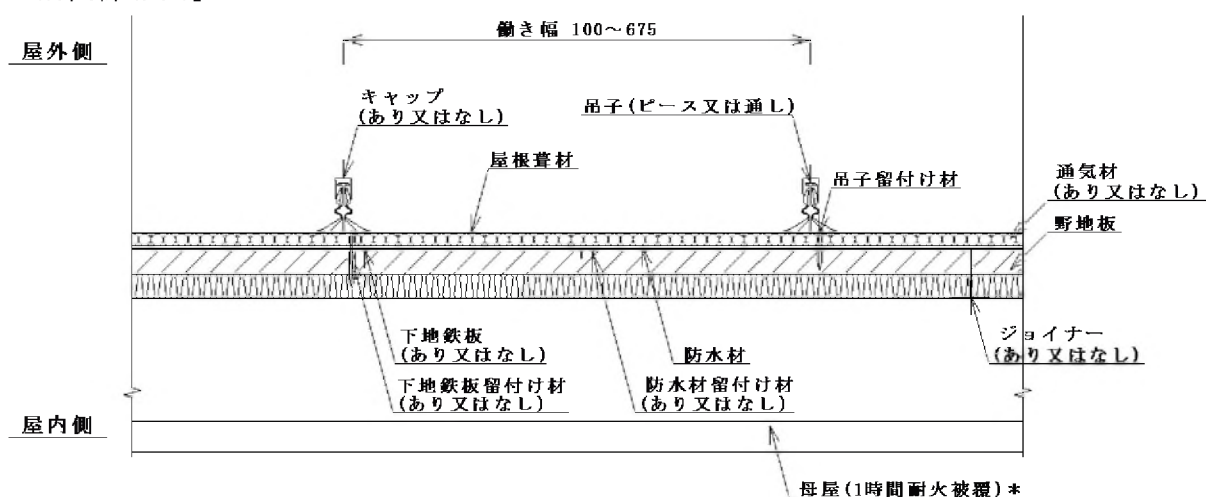
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

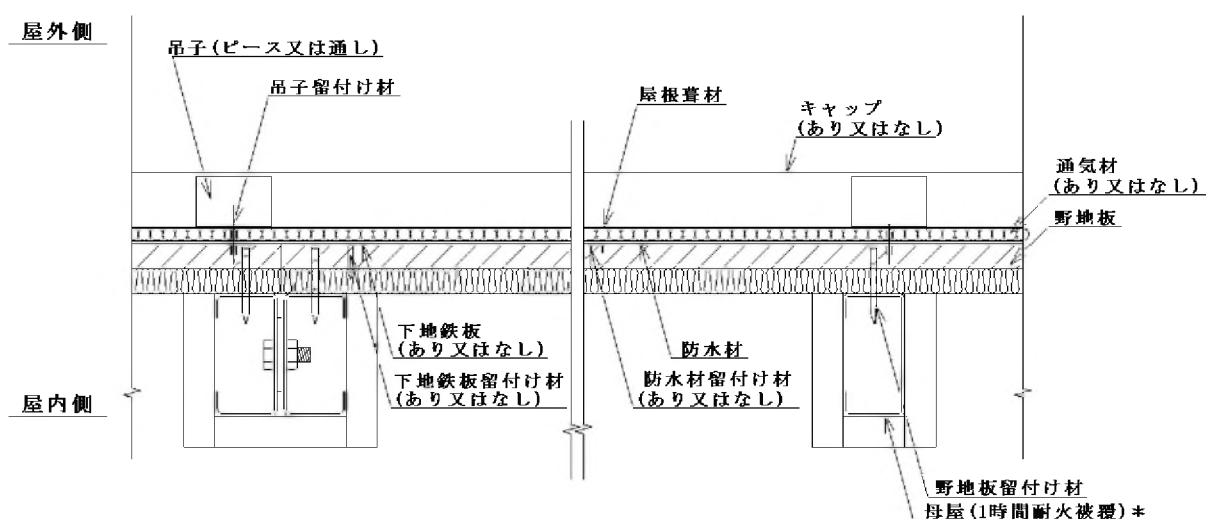
(8) かん合式立ちハゼ葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

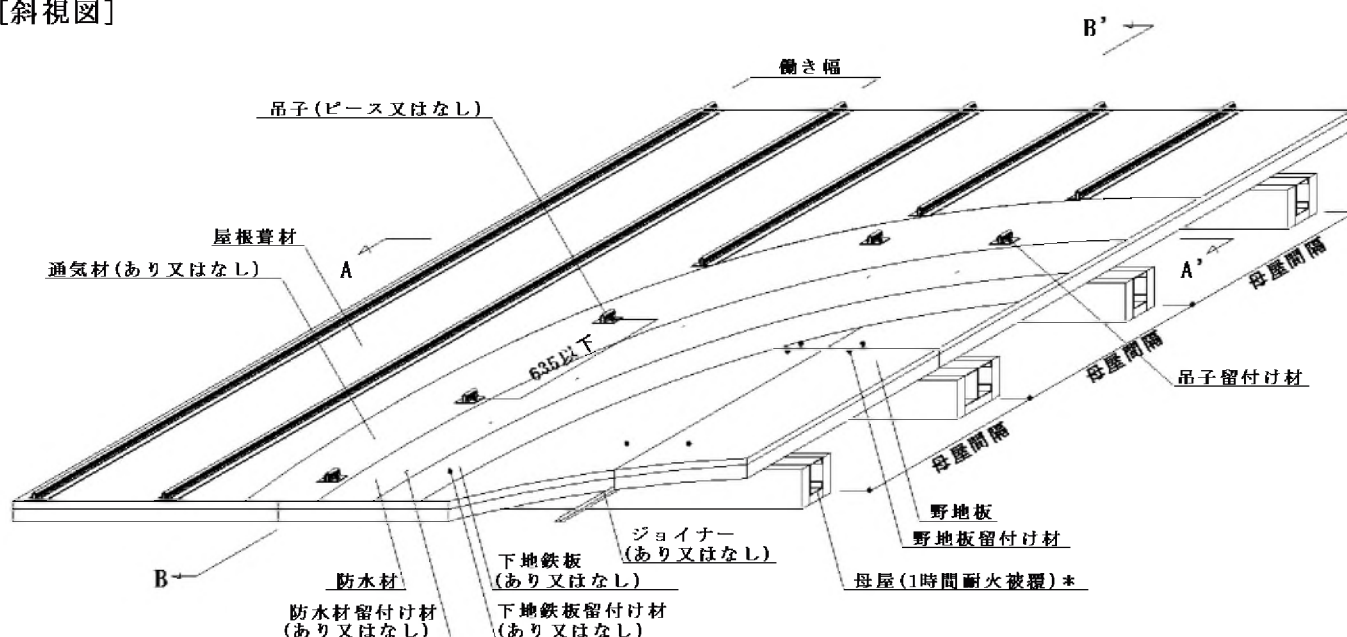


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

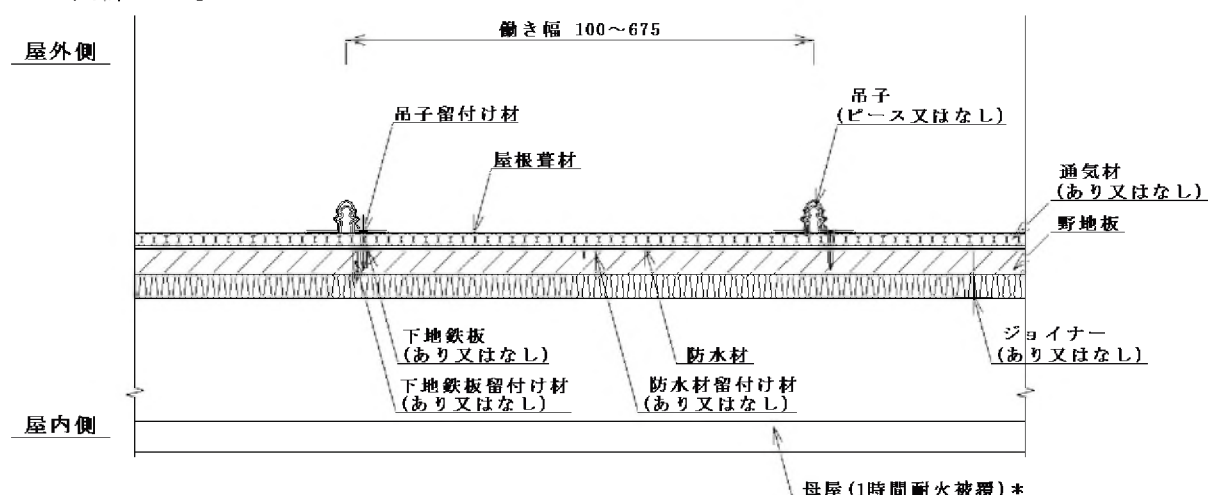
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

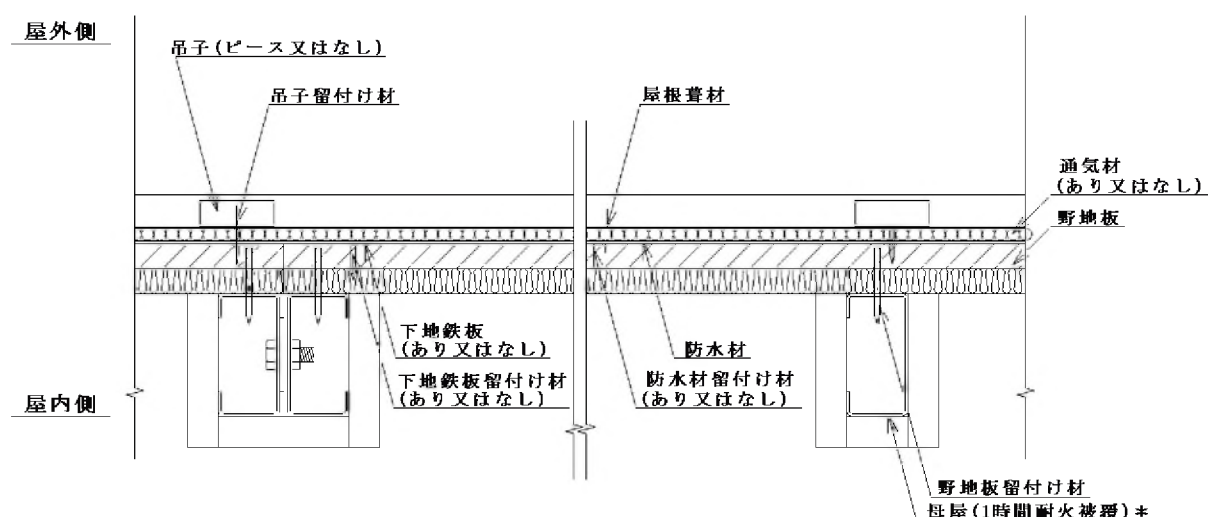
(9) キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

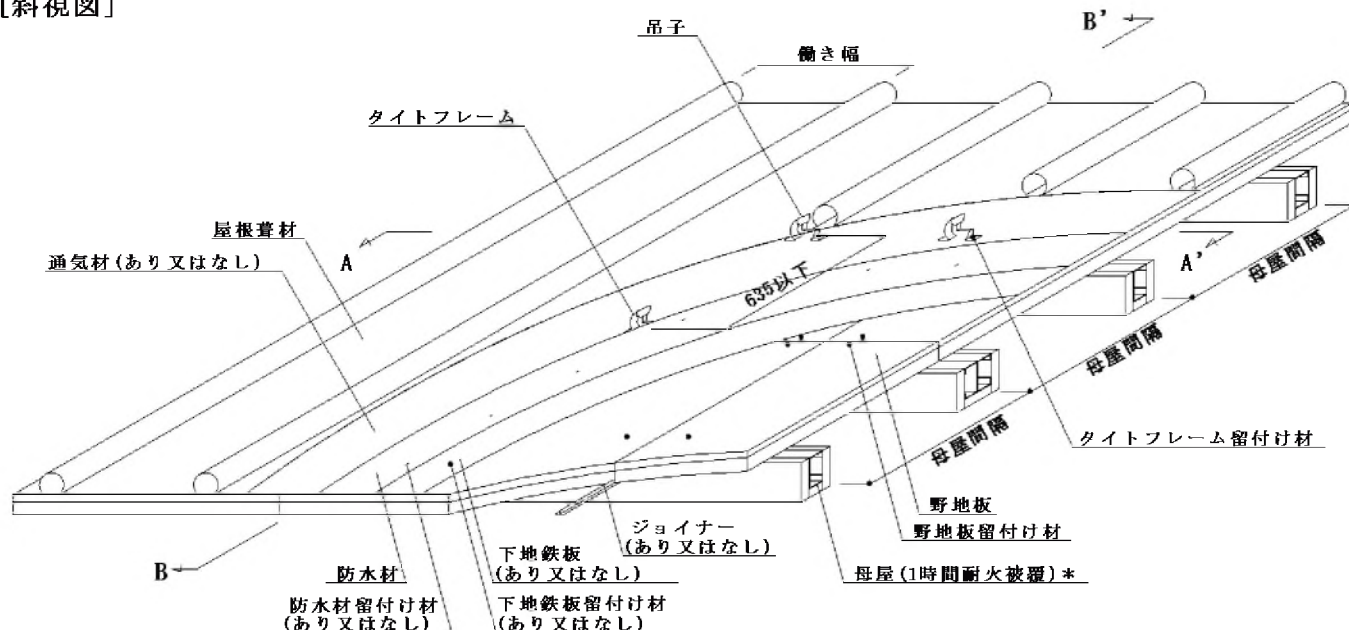


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

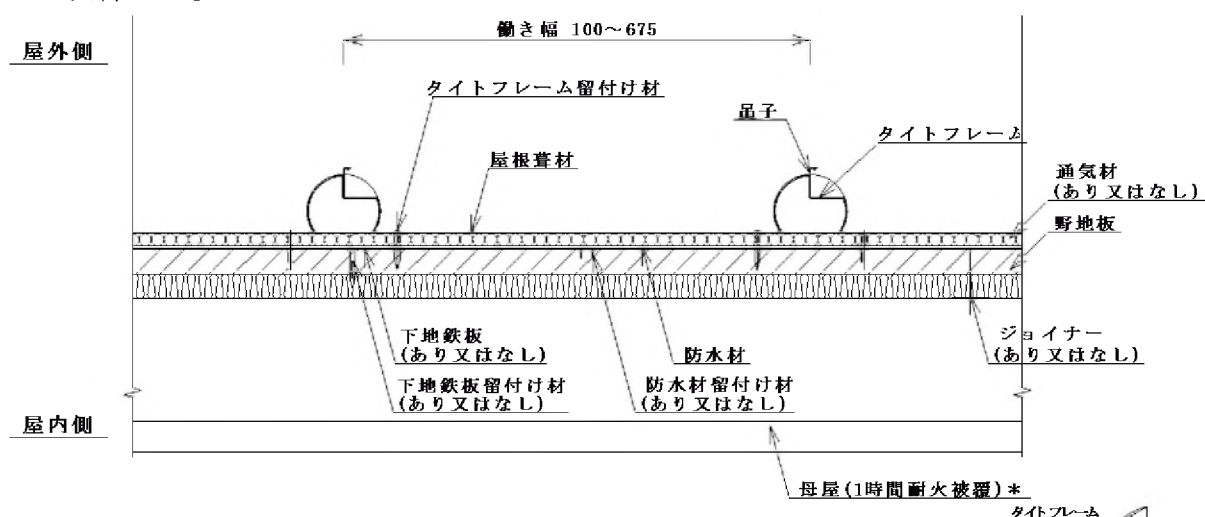
*: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

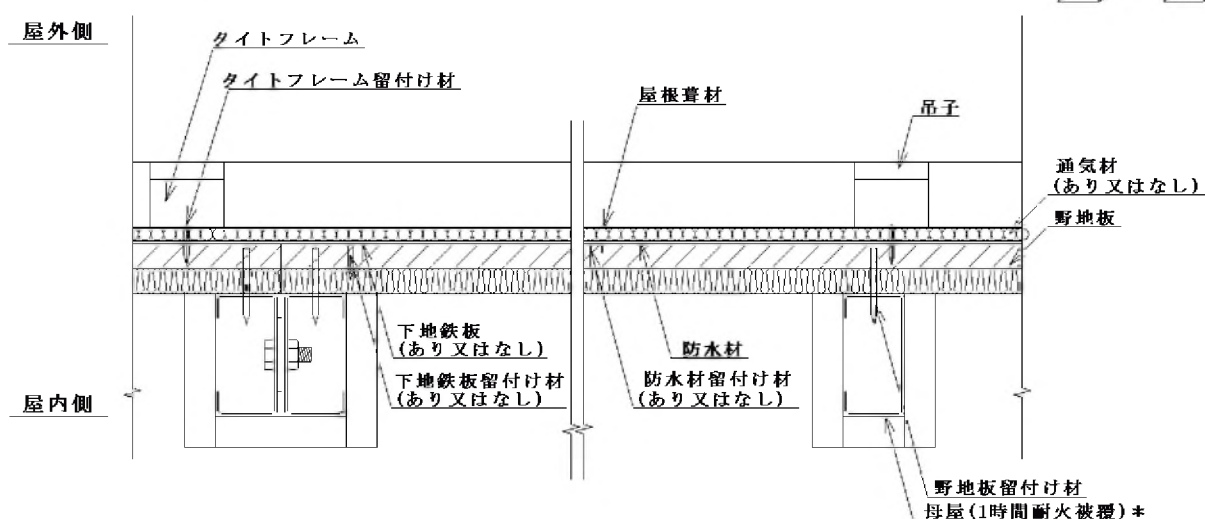
(10)円筒葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



[B - B' 断面詳細図]

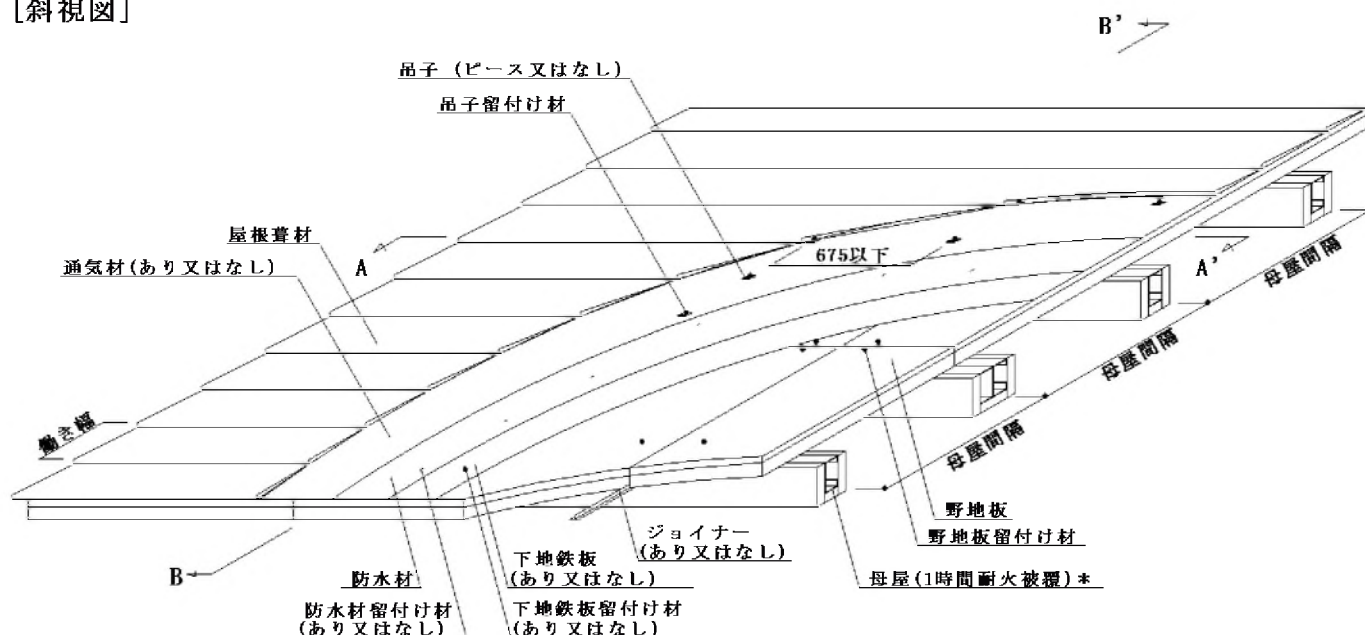


注)寸法および材料構成は2および3のとおり

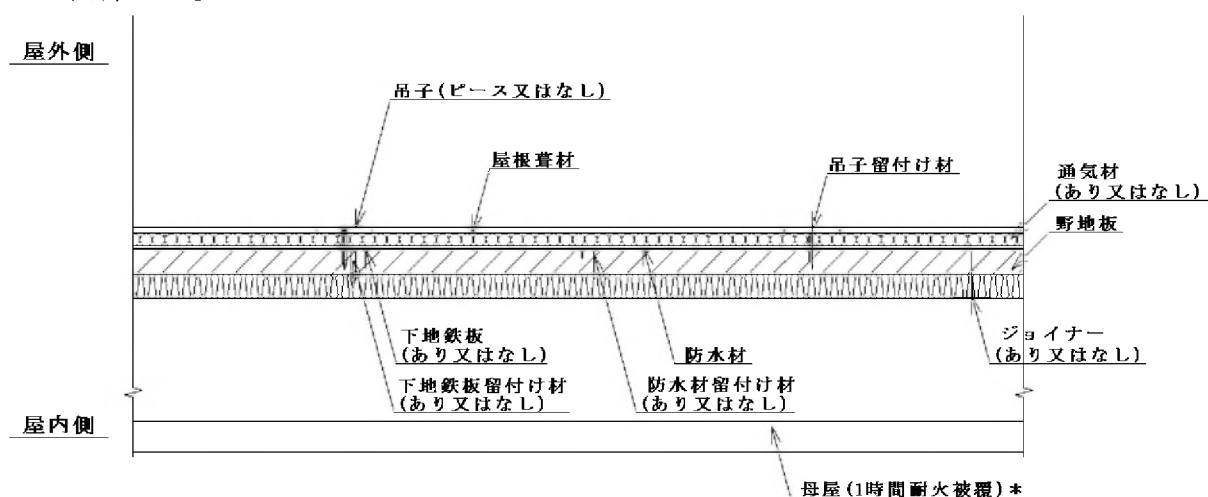
*:本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)

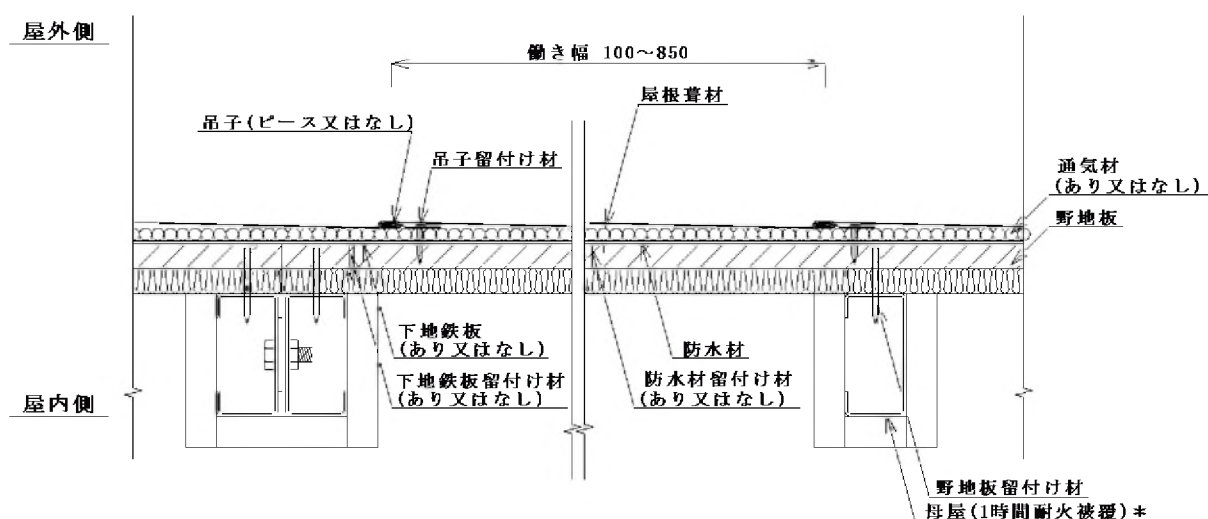
(11) 平葺き
[斜視図]



[A - A' 断面詳細図]



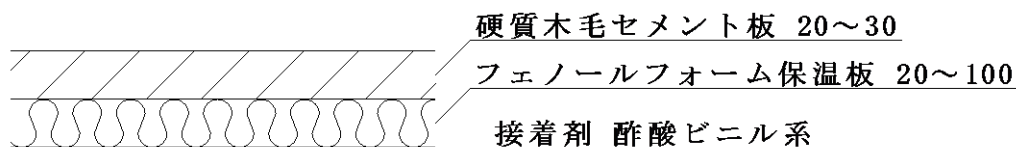
[B - B' 断面詳細図]



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

*: 本評価内容に含まない

[野地板の構成]



5. 施工方法等

＜ 施工図 ＞

4. 構造説明図と同じ

＜ 施工手順 ＞

(1) 母屋間隔は607mm以下とし、平成12年建設省告示第1399号第4第三号ニの規定に該当しない場合には耐火1時間の被覆を施す。

(2) 野地板の取付け

- ① 母屋に合わせて野地板を配置する。
- ② 母屋上の目地は突付け、母屋と直交する目地にはジョイナー(あり又はなし)を入れる。
- ③ 取付けは留付け材を用いる。

(3) 下地鉄板(ありまたはなし)の取付け

留付け材を用いて母屋に留付ける。その間隔は1000mm以内とする。

(4) 防水材の張付

防水材を野地板の上に敷き込む。

必要に応じてタッカーなどで仮留めする。

(5) 通気材の張付

通気材を防水材の上に敷き込む。

(6) 屋根葺き

イ) 葺き仕様：①立平葺き、②横葺き、③瓦棒葺き、⑤かん合式瓦棒葺き、⑥かん合式瓦棒葺き(丸棧)
⑦本体押え込み縦葺き、⑧かん合式立ちハゼ葺き、⑨キャップ一体型かん合式立ちハゼ葺き及び⑪平葺きの場合

・吊子を吊子留付け材で、野地板又は母屋に留付ける。(①、②、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑪)

・屋根葺材を吊子に固定する。

又は、屋根葺材を直接屋根葺材留付け材にて、野地板又は母屋に留付ける。(②、⑨、⑪)

ロ) 葺き仕様：④折板葺き及び⑩円筒葺きの場合

・タイトフレームをタイトフレーム留付け材で取付け、その上に吊子を吊子留付け材で留付ける。

・屋根葺材をタイトフレームと吊子に固定する。